

愛知商業高校ユネスコクラブ

ミツバチと創る持続可能な地域と未来 ～未来へつながる 10 年の軌跡とこれからの歩み～

活動期間 2011 年～

活動場所 名古屋市

web <https://aichi-ch.aichi-c.ed.jp>

ポイント

校舎の屋上で養蜂活動を行っており、そこで採れたはちみつを活用し、地元企業と共同でフェアトレードや被災地支援にも繋がる商品を開発、販売やイベントを通じて社会的課題とともにその解決方法についても発信し、生物多様性と消費行動を結びつけている。

背景・経緯

名古屋市では、1999 年のごみ非常事態宣言から 2005 年に愛知万博、2010 年に COP10 が開催される等、自然と共生する持続可能な社会に向けた大きな動きがありました。COP10 の翌年、学校周辺に広がる名古屋近代化の歴史遺産が数多く残るエリア「文化のみち」の持続可能なまちづくりを目標に「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」を立ち上げ、校舎の屋上で都市型養蜂の実証実験を開始しました。

目的

校舎の屋上で採れたはちみつは、日本庭園「徳川園」を主な蜜源としており、本校が尾張徳川家ゆかりの地に立地していることから、歴史と文化のかおりがする「徳川はちみつ」と名付け、地域のブランド化を目指し、2013 年に商標登録を行いました。ミツバチを核に、生物多様性の普及・推進や名古屋都心の自然環境向上、地域とのつながりを深めるコミュニティ活動、徳川はちみつを活用した社会貢献型商品の開発、被災地との交流等を通して、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指しています。

取組内容

自然と共生する持続可能なまちづくりに向け、生物多様性を身近な生活の中で実感し、行動してもらうことが必要だと考え、誰もが日々の生活の中で行っている「消費」という行動に着目し、徳川はちみつを活用した社会貢献型商品の開発を行いました。

1 つ目は、岩手県陸前高田市の特産品「米崎りんご」を使用した復興応援アイス「希望のはちみつりんご」です。名古屋市が東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市を「丸ごと支援」していることを知り、地元企業と協働でこのアイスを開発しました。売上 1 個につき 8 円が「陸前高田市小中学校復興基金」に寄付される仕組みとなっています。2013 年の販売開始から 5 年後には累計販売個数が 10 万個、寄付総額が 80 万円を超え、名古屋市と陸前高田市をつなぐ希望の架け橋としての役割を果たしています。

2 つ目は、国際フェアトレード認証を受けたガーナ産フェアトレードカカオを使用したアイス「幸せのはちみつカカオ」です。フェアトレードは貧困・環境等の問題を解決する手段の一つであり、売上の一部は「フェ



観光ツアーの様子

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

「アトレードプレミアム」という奨励金として、現地の教育支援等に充てられています。

これら2つのアイスは、2014年に名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の日本政府主催歓迎レセプションパーティーの公式デザートに採用されました。

また、生物多様性を含む「エシカル消費」の体験イベントとして、旅行会社と共同で女性のやりたいこととエシカル消費を組み合わせた「文化のみちを巡る自分磨きの旅」を企画しました。「文化のみち」を舞台に、地域の歴史にも触れながら、地産地消の「オーガニックランチ」、フェアトレードの和菓子を使用した「和やか茶会」、ミツバチの巣の原料であるみつろうを再利用した「ハンドクリームづくり」等の体験の場を提供しました。

このほかにも、アフリカ産のフェアトレードの薔薇を使用した「フェアトレードローズで贈る特別な母の日」や、地産地消の食材を使用した「親子で楽しむエシカルクッキング」等を企画し、エシカルな体験をする機会をつくっています。

これらの活動が評価され、家庭科の教科書や英語の教材、社会科の副教材へ掲載される等、これからの未来を担う高校生に生物多様性やエシカル消費等について考える「きっかけ」を提供しています。



市長表敬訪問の様子

今後の展望

「オンライン自由研究おたすけ隊！」と題し、小学生の親子をターゲットにミツバチの生態や校舎屋上の養蜂場見学、採蜜体験の疑似体験等の企画を盛り込んだオンラインイベントの準備を進めています。SDGsの視点も取り入れることで、社会的課題とともにその解決方法についても行動に移す「きっかけ」を提供したいと考えています。

ミツバチプロジェクト開始から今年で10年目となりました。これからも、地域・企業・行政と協働し、世代や属性を超えた人的つながりを構築しながら、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指して、挑戦し続けます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



愛知商業高校ユネスコクラブのみなさん

愛知商業高校ユネスコクラブ

2020年度、ミツバチプロジェクト開始から10年目を迎え、この節目の年にベストプラクティスをいただけたこと、大変光栄に思っています。私達は日々、地域の環境や社会的課題等、ミツバチから多くのことを学んでいます。この学びをミツバチを通して発信することで、地域の生態系や生物多様性に加え、社会的課題の解決やSDGsの普及・推進を目指していきます。

豊田市立五ヶ丘東小学校

自然と人との共生するふるさと“五東の里”をつくろう

活動期間 2005 年～

活動場所 豊田市立五ヶ丘東小学校（豊田市五ヶ丘）

web http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_itsutsugaokahigashi

ポイント

小学校の敷地内にビオトープを造成し、1年生から6年生まで各学年の教科の学習と組み合わせて、継続的な取組がされています。

環境学習を通じ、保護者や地域、NPO とも協働して活動しています。

背景・経緯

当校の周辺は高さ 100m ほどの山がいくつも連なり、その谷間には田んぼや畑、草原、小川などがあり、多様な生きものが生息する自然豊かな環境でした。しかし、豊田市は人口増加に伴う都市計画事業により、山を削り、谷を埋めて宅地造成をし、自然環境が激変しました。

自然の大切さ、生きものの命の尊さについて考え、自然と人との共生できるまちづくりを本校の児童が目指してほしいという教師の願いと、かつての自然を取り戻し、地域にいた生きものを呼び戻したいという児童の願いにより、2005 年に校内にビオトープを造成しました。造成面積は約 660m²で、当時の教職員と専門家で組織する学校ビオトープ設置委員会で計画を検討し、市内の造園会社の協力のもとに施工しました。

目的

当校では、地域の自然環境、特に学校ビオトープを基盤にした学習や活動を教育課程に位置付けています。総合的な学習では、3～6年生のすべての学年でビオトープを活用した学習が行えるように、年間の学習計画が作成されています。また、生活科と総合的な学習の時間を中心に、各教科や特別活動においても、自然にかかわる体験活動を組み込んだ学習を1年生から6年生の全学年で実践しています。ビオトープ学習は、児童の探究心をくすぐり、様々な人や生きものとの対話から主体性を引き出し、深い学びにつながっています。身近な自然と直接かかわる体験活動をする中で、ふるさとを愛する心、主体的に学ぶ力、創造的な態度も、児童の中に育ってきており、自分のふるさとが大好きな児童に育成することを目的としています。

取組内容

当校では、校内のビオトープ、校内の樹木や草地、隣接する森すべてを学校ビオトープととらえ、命のつながりを意識して、多様な動植物が生育できる環境づくりに取り組んでいます。また、運動場の野草もビオトープと考えており、体育の授業で使用するトラック部分以外は、意図的に野草を刈らずに残すようにしています。

校内のビオトープは、まわりの川や池、森などから自然に飛んで集まるトンボを小川や池の目標種に設定して、トンボの楽園を目指して環境づくりに取り組んでいます。羽化や産卵のために草を残す所、開放水面をつくるために草を刈る所、水量の調節をして池の底が見えるようにした所など、多様なトンボが集まるように児童が工夫し、試行錯誤をしながら学習やビオトープ整備を進めています。その結果、トンボは現在ま

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

でに 31 種（県内生息確認種の 35%）の生息が確認できました。トンボのほかにも、メダカ、ドジョウ、アカハライモリ、8 種類のカエルなど、生きものの種数も増えています。

学校ビオトープの環境学習への活用として、3・4 年生は総合的な学習で活動フィールドごとに児童 2～3 人の池班、草地班、田んぼ班、小川班、里山班に分かれて、それぞれが目標種を決めて環境づくりを行っています。また、全校児童がビオトープに親しんでもらう取組として、5、6 年生が総合的な学習や委員会活動でネイチャービンゴを作成しています。

教員向けには、ビオトープ管理マニュアルを作成しています。ビオトープ整備カレンダーを作成して、児童、教職員、保護者、地域が協力して適切に整備を行っています。専門的な知識を持つ地元環境 NPO から指導と助言もいただき、学校だけでなく多様な主体の協力のもとにビオトープの維持と管理がなされています。

さらに、児童が地域の方とビオトープ観察会を行ったことを契機として、地域の環境意識が高まり、里山や自然散策道「ほおじろ道」の再整備が地元で議論され、豊田市に提案しています。行政や他団体との連携としては、豊田市が実施する「地域の生き物調べ」に 2014 年から 3 年生以上が参加しています。



地域の方を招いての観察会



トンボの羽化を助ける木の棒立て

今後の展望

多様な生きものが生息できる環境の継続的・順応的な維持管理を行います。総合的な学習や各教科などの授業以外でも、積極的にこの環境を活用し、ビオトープ活動の地域への啓発と地域との連携強化を進めます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



谷口隆さん

豊田市立五ヶ丘東小学校

本校では、総合的な学習を中心に、各教科にも自然と関わる体験活動を組み込んで、ビオトープを活用した学習を行っています。ビオトープ学習は、児童の探究心をくすぐり、様々な人や生きものとの対話から主体性を引き出し、深い学びにつながる、まさにアクティブラーニングそのものです。身近な自然と直接かかわる体験を通して、郷土愛や創造力も、児童の中に育ってきていると感じます。

愛知県立南陽高等学校

生物多様性保全を目指した地域と社会に貢献する SDGs の取組 ～フェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICE を活用した実践～

活動期間 2010 年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://nanyo-h.aichi-c.ed.jp/b-nanyo%20company.html>

ポイント

フェアトレード、カーボンオフセット等を組み合わせた独創的なアイデアを企業との協働で商品化し、イベントでの販売・発表を通じて広く消費者へ普及を図っています。

開発した商品が大手量販店で販売されるなど、波及効果が期待されます。

背景・経緯

2015 年に名古屋市はまちぐるみでフェアトレードを盛り上げるフェアトレードタウンに認定され、フェアトレードの商品をより一層広めていく必要があります。また、同年 12 月にはパリ協定が採択、温室効果ガス削減は急務となっています。

商品を購入するという行動が市民が最も取り組みやすい行動であることから、商品開発を通して地域や企業を巻き込んだ SDGs の取組を行うことにしました。

目的

Nanyo Company 部は地域貢献を目的としてイベントへの出店や商品開発・販売の取組を行ってきました。その中でフェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICE 等を活用することにより、消費者に環境に配慮した商品の賢い選択を促します。また、地域社会全体で SDGs 達成を目指した商品の購入が行われることで、環境配慮商品の安定した取引が行われ、生産地の生物多様性の保全等に繋がります。

取組内容

活動の特色は 2 つあり、「フェアトレード」、「カーボン・オフセット」、「COOL CHOICE」を組み合わせで行っていること、企業や消費者を巻き込んでいることです。仕組を組み合わせることで複数の課題解決を同時に行うことができ、さらに地元企業と商品開発を行うことで買い物という身近な行動に繋げることができることから、SDGs の達成を地域ぐるみで行うことができます。

生物多様性の保全に向けて「ココキーホルダー」という商品を開発しました。この商品は本校の近隣にある藤前干潟とフィリピンのオランゴ島が渡り鳥で繋がっていることを知ったことから、フィリピンの地域住民の生計向上に役立つ手芸品を販売し、その収益金の一部をセブ州オランゴ島と周辺地域でのマングローブ



SDGs 概念図



マングローブ植林証明書とオリジナルフェアトレードキーホルダー

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

植林活動に寄付することで、カーボンオフセットと藤前干潟の生物多様性の保全に貢献しています。商品の発売以降、1,270本の植林につながり、藤前干潟の保全と渡り鳥を守るという生物多様性の保全に貢献できたと言えます。

また、企業と協働で、フェアトレードコーヒーや、フェアトレードの黒糖を使用したどら焼きやわらびもち等のオリジナル商品を開発し、これらの商品をカーボン・オフセットしています。クレジットは木曽川で繋がる長野県や岐阜県のクレジットを使用し、クレジットによって上流域が整備されれば下流にある愛知県の農産物等にも良い影響を与えることができると考えています。さらに、オリジナル商品のわらびもちの容器には生分解性プラスチックの容器を採用するなど、マイクロプラスチック問題にも寄与しています。

これまで県内で100以上のイベントへ出店し、販売や発表を通じて、これらの活動の普及啓発を行っています。

また、オリジナル商品を多くの消費者に届けるために、大手ショッピングモールの販路拡大も行い、イベントに参加しない一般の消費者の手に届くよう、積極的に活動しています。



高校生開発オリジナルフェアトレードコーヒー



商品販売・啓発

今後の展望

持続可能なSDGsの目標達成を目指し、フェアトレード商品を消費者が手に取りやすい環境を作るため、多くの小売店に採用してもらえよう「販路拡大」を図り、廃棄予定の商品を元に新しい商品を開発することで「流通業界の3分の1ルール」の解決の2点を計画しています。

ベストプラクティス 受賞団体コメント



愛知県立南陽高等学校のみなさん

愛知県立南陽高等学校

この度はベストプラクティス賞という素晴らしい賞をいただき光栄に思います。私たち Nanyo Company 部の地道な活動が評価され、とても嬉しいです。これからもフェアトレード、カーボン・オフセット・COOL CHOICE を組み合わせながら、今よりも環境に配慮した商品開発・販売に力を入れ、植林や街路樹保全などに積極的に寄付を行うことで、地域の方とともに生物多様性保全に貢献していきたいと思っています。

愛知大学 地域政策学部 学生地域貢献事業団体「森の子」

地域連携・社会連携による生態系保全活動

活動期間 2014 年～

活動場所 奥三河地域

web <https://www.aichi-u.ac.jp/>

環境の保全と改善に関する活動を通して、より多くの人々に自然環境について興味と関心を持ってもらい、様々な機関との協働により、地域の交流を深めるために、愛知大学地域政策学部では学生による地域貢献活動に力を入れています。学部設立時より「学生地域貢献事業」を展開し、地域の環境政策を学ぶ学生が、「学んだことを地域の現場で活かしたい」との思いから「森の子」を立ち上げ、地域住民や企業、自治体と連携しながら、自然の面白さや大切さを伝える目的で活動に取り組んでいます。

新城設楽生態系ネットワーク協議会の主催事業や自治体の環境部門との連携活動に積極的に参加しています。また、地域貢献や子どもを対象とした木育活動として、同協議会に所属する団体が主催するイベントや、自治体主催の催事へ出展しています。バスツアーによる植樹活動や豊川市とも連携した豊川市内生物調査、豊川流域水生生物調査、自然観察マップ作成、子どもたちに自然に親しむことを目的とした木育活動、あいち・なごや生物多様性 EXPO での取組内容の発表、生物多様性保全活動などを行いました。

取組キーワード

森林

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



2014 年度植樹ツアー参加



2019 年度生物多様性 EXPO 分科会

犬山市立池野小学校

校庭ビオトープを舞台にした環境教育、絶滅危惧種の保全活動

活動期間 2016 年～

活動場所 犬山市立池野小学校（犬山市字杵下）

web <http://www2.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310195>

本校では、校庭にあるビオトープと学校周辺の環境を活用し、5年生の児童を対象に環境教育とキャリア教育を継続的に行っています。環境教育では身近な生きものや自然環境について学び、人との関わりについて考えます。キャリア教育では、ヒメタイコウチが生息するビオトープの維持改善活動を通じて、地元の環境関連企業の活動を体験し、環境と社会との繋がりについて学びます。

授業では日本の自然環境の豊かさや、生態系から人に提供される様々なサービスについて学習します。また、生きものへの興味関心と理解を育むために、学校周辺で植物や昆虫を採取し、生きものの「形」を観察、その意味についてグループで話し合い、発表を行います。キャリア教育では、ビオトープの維持管理や植物の苗づくり、その植栽を行い、自然環境に関わる企業の仕事を体験します。2019年度の学習発表会では、児童が自主的に「人と自然にやさしく生きる」というテーマを選考し発表を行いました。これからも身近な自然環境や生きもの、それらと人との関わり合いへの興味関心を深め、持続可能な社会の構築に向けた問題解決能力のある人材を育てていきたいです。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



学習発表会の様子



苗づくりの体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

愛知県立木曽川高等学校 総合実務部

国の天然記念物 木曽川のイタセンパラの保護につながる活動

活動期間 2015 年～

活動場所 木曽川中流域（一宮市）等

web <https://kisogawa-h.aichi-c.ed.jp>

イタセンパラは、国の天然記念物（1974 年 6 月指定）の淡水魚で、本校では、生物部が 1974 年 9 月に木曽川で発見し、生息地の保護活動や生態調査を始めました。しかし、生息環境の悪化により、年々数が減少し、1995 年には絶滅したと考えられていましたが、2005 年に再発見され、現在は当部がイタセンパラの保護活動に取り組んでいます。

本校では、イタセンパラの保護につながる調査・研究と学習活動、広報活動及び生息地の保全活動を「3本の柱」として、活動を実施しています。

この中でも、地域の方にイタセンパラを知ってもらい、「地域の宝」として保護するために、特に広報活動に力を入れています。「イタセンパラかるた」を制作し、未来を担う子どもたちに向けて保護活動の必要性を訴えています。また、認知度アンケート調査、ワンド周辺の清掃を実施したり、パトロール活動にも参加したりしてきました。引き続き、イタセンパラの生息環境を取り戻すために、高校生の私たちにできる活動を行っています。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



イタセンパラかるた大会



二枚貝の殻の調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

愛知県立佐屋高等学校 生物生産科 作物研修班

チェーン除草による水田環境の保全と持続可能な米作り

活動期間 2018 年～

活動場所 愛知県立佐屋高等学校農場水田（愛西市東條町）

web -

稲作を行う上で、昔から水田雑草の除草は大きな課題でした。除草剤が開発されましたが、抵抗性を持つ雑草も現れ、そのたびに除草剤の効果も強化されてきました。雑草以外に水田に生きる生きものなど生物多様性への理解や薬剤による人への影響を考慮する観点から、除草剤の使用量を極力抑える必要があります。

チェーン除草は、環境負荷の少ない除草方法として全国の有機稲作に取り組む農家の間で広まってきた手法で、塩ビパイプ等の棒にチェーンを取り付けて水田内を引きずりながら行き来し除草する方法です。田植え後の雑草防除に効果が期待され、地元の小学生とも協働し、2018 年、2019 年の 2 年間、チェーン除草を用いた米作りを行いました。また、可能な限り有機肥料を使用し、安全安心な「米作り」を行いました。

今後は、チェーン除草の効果も検証し、普及や作付け作業全体の見直しを行うとともに、水田に優しく、周囲の環境にも配慮した稲作を目指します。

取組キーワード

農地

環境教育・普及啓発



自作したチェーン除草機



自作のチェーン除草機での作業

豊田市立滝脇小学校

私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！
私たちの森 広げよう！地域へ

活動期間 1966 年～

活動場所 学校林「野鳥の森」（豊田市滝脇町）

web http://toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_takiwaki

本校は、1966 年に「愛鳥モデル校」の指定を受け、愛鳥活動を教育課程に位置付けています。愛鳥活動を通して自然を理解し、守ろうとする子どもを育む活動を継続して行っています。さらに、地域全体で野鳥の保護活動を推進しています。

具体的には、探鳥会や愛鳥委員会活動、愛鳥検定などの「知る活動」、給餌活動や営巣調査などの「守る活動」、発表会や広報活動などの「広げる活動」に取り組んできました。

これらの活動を通して、野鳥や校区に生息する生きものに親しみ、興味をもつ子どもが増えてきました。地域の自然環境に関心を持ち、つばさと根っこ会（地域学校共働本部）と協力し、森の伐採などの自然環境に働きかける活動も行われるようになりました。科学的な視点に立った調査活動を通して、自然環境、生きものやその保護活動について、主体的に考えようとする子どもが育ってきました。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



営巣調査



夏鳥探鳥会

中部大学 応用生物学部南基泰研究室

知多半島臨海工業地帯企業緑地の
生態系ネットワークとしての貢献度評価

活動期間 2011 年～

活動場所 臨海工業地帯の企業緑地（知多半島）

web -

知多半島臨海工業地帯の企業緑地は、人と人とのつながりを育みながら生きものの生息環境をつなぐ生態系ネットワークのコアエリアとして期待されていますが、哺乳類相の生息地域性評価がされていませんでした。このため、フィールド調査を実施し、緑地整備手法を提言するために、活動を開始しました。

企業緑地に生息する小・中型哺乳類の調査を実施し、在来種と外来種の区分も行い、各種の活動頻度を調査しています。また、哺乳類に対する企業緑地の貢献度を評価するとともに、生息地としての適性を高めるための緑地整備の手法を明らかにしました。小型哺乳類の生息調査では、ネズミ 2 種が確認され、DNA 鑑定などにより、バラ科などの餌資源となっている樹種が明らかになりました。中型哺乳類の生息調査では、タヌキ、ニホンノウサギ等 9 種及び 1 属が確認されました。タヌキの HSI モデルから、適度な間伐が、ハビタット適性を向上させることが明らかとなり、緑地整備として適度な間伐、落葉や枯れ枝の集積作業を提言しています。今後は、多種多様な生物相の生息地適性評価ツールを作成することを目指します。

取組キーワード

森林

野生生物の保護

その他：生態系ネットワーク形成、企業緑地管理



自動撮影カメラのデータ確認

企業緑地にキツネ



地域絶滅したキツネを撮影

愛知県立知立東高等学校 自然科学部

猿渡川における外来生物の調査および地域への情報発信

活動期間 2011 年～

活動場所 愛知県立知立東高等学校（知立市長篠町）

web <https://chiryuhigashi-h.aichi-c.ed.jp/>

生態系を乱す原因となっている外来生物は問題視され続けています。本校近くを流れる猿渡川にどれくらいの外来生物が生息しているのかを調べ、カメの種類別の生息状況を調査してきました。外来生物がどのくらいの影響を環境に与えているかを明らかにし、同時にイシガメなど外来種の保護のために啓発活動を行い、多様な生態系の保全に役立ちたいと本校では考えています。また、啓発活動の一環として環境学習教材を作成し、外来生物についての問題を子どもから大人まで楽しく学んでもらいたいと考えています。

主な活動として、2011 年から猿渡川に生息するカメの捕獲調査を行っています。その結果、アカミミガメが約 70%を占めていることが判明し、その反面、在来生物のイシガメの生息数は少ないことが分かりました。また、環境学習教材として「すごろくカメマス」を出前授業やイベントなどで活用し、体験者が外来生物の問題について考える機会を、今後もつくりたいと考えています。さらに新たな環境学習教材を開発し、啓発活動に取り組んでいきたいと思っています。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



猿渡川でのカメ捕獲調査



「すごろくカメマス」の体験

人間環境大学 生物クラブ

岡崎市における外来カマキリ調査と普及啓発活動

活動期間 2019 年～

活動場所 岡崎市内

web https://twitter.com/uhe_animal

外来カマキリのムネアカハラビロカマキリは、2014 年に豊田市で、2018 年には岡崎市の北山湿地で報告されました。カマキリ類は昆虫採集の対象となるため、意図的・非意図的な移動が懸念されています。

当団体では、効率的な防除策を検討するため、岡崎市内の外来及び在来のカマキリの分布状況を明らかにするための調査を行うとともに、県内の各種イベントで地域の方への普及啓発を行いました。

分布調査は、自動車で低速走行してカマキリ類を探す調査、任意の地点で目視調査を行う定点調査、一般の市民の方々に目撃情報を提供してもらう市民参加型調査を行いました。また、普及啓発活動として、人間環境大学大学祭やあいち・なごや生物多様性 EXPO などのイベントで、調査結果や標本と共にムネアカハラビロカマキリについて解説しました。

今後も継続的な調査を通じて、防除の方法を検討します。また、ムネアカハラビロカマキリの認知度はまだ低いため、普及・啓発活動を継続します。

取組キーワード

森林

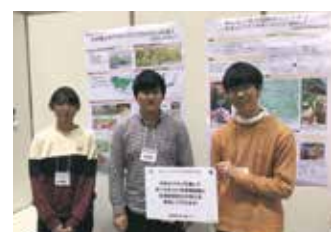
野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



大学祭にてムネアカの解説中



目標を掲げるクラブ員

春日井市立東高森台小学校

身近な自然環境を調べその変化を学習する

活動期間 2005 年～

活動場所 築水の森（春日井市）

web -

本校は、高蔵寺ニュータウンの北東に位置しています。学校の北には弥勒山や大谷山、南には瀬戸の山々、西には高森山が見えます。この環境の中、総合学習で 3 年生から 5 年生が自然を学習しています。

ビオトープの観察やギフチョウの成長観察などを通して、生きものの不思議さを知ること在学习しています。2004 年から 2019 年まで、学校のプールを利用してヤゴを観察しました。2015 年からは、プールにわらの束を 2 か所入れることで、草や木の上で産卵するヤンマの数が増え、全体数も多くなりました。また、水辺や水中の生きもの・植物などのテーマに分かれ、季節による違いを調べました。築水を中心に活動している観察会の方からいろいろな水生の生きものについて教えてもらい、観察したことをスケッチし、名前などをまとめました。

春日井市少年自然の家の敷地を借り、ギフチョウの観察を行いました。今後も継続的にギフチョウやプールのヤゴの保護を行い、地域の自然を調査していきます。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ギフチョウの卵調査



プールのヤゴ調査

富士文化幼稚園

命はつながっているんだね

活動期間 2009 年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.fujibunka.com/>

2009 年に名古屋市が園児と保護者に「生物多様性」を伝えることを目的に企画した「まちじゅうで稲づくり」に参加して以来、バケツでの稲作りを現在も続けています。子どもたちに、毎日当たり前で食べているお米が、長い月日をかけ自然の恵みを受けて実ること、「いただきます」は「生きものの命をいただきます」、「ごちそうさまでした」は「大切な命をありがとう」という意味であることを伝えるため、環境カウンセラー、NPO 法人『びすた〜り農園』代表である高山博好先生の指導のもと、米の種まきから、田植え、稲刈り、収穫した米の一粒ずつの脱穀、粳摺り（皮むき）を手作業で行っています。また、バケツ稲を発展させ、わらを使った草履づくり、納豆づくりのほか、味噌作りを行い、生きものの働きを体験しながら学んでいます。

子どもたちは、生きものとの関わりの中で、命の神秘、食物連鎖について知り、自分たちの命と繋がっていることを、体と心で学んでおり、子どもたちが学んでいる姿を保護者にも伝えることで、親子での共有もしています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発



田植え



稲刈り

名城大学附属高等学校 自然科学部

庄内川における生物調査と環境学習

活動期間 2012 年～

活動場所 枇杷島橋（名古屋市西区）

web -

本校の自然科学部は、約 100 名の部員が在籍しています。2012 年に「矢田・庄内川をきれいにする会」から、本校のすぐ北側を流れる一級河川「庄内川」の水質が、全国一級河川のワースト 10 であることや内分泌かく乱物質の重要地点濃度を超えていることなどを聞きました。「庄内川」は、BOD（生物化学的酸素要求量）の類型が D（8 mg/L 以下）となっています。このような状況を踏まえ、身近な川的环境を知り、生物の多様性を調査し、環境保全を含めた学習活動を実施することにしました。

月に一回の庄内川の生態調査の結果、生物相が年々変化していることがわかりました。特に近年はカダヤシの減少とモクズガニの増加が特徴的でした。これらの結果や作成した標本等は、毎年「三河湾大感謝祭」をはじめとする多くの生徒研究発表の場で発表し、一般の方に対しても広く周知することができました。また、環境保全の学生連合を立ち上げる卒業生が現れるなど、次世代育成にも貢献できました。砂州の清掃活動なども行い、活動を通じて、庄内川の状況と身近な環境を知ることができました。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発

協働



採集した生きものの同定および記録



庄内川での生物採集の様子